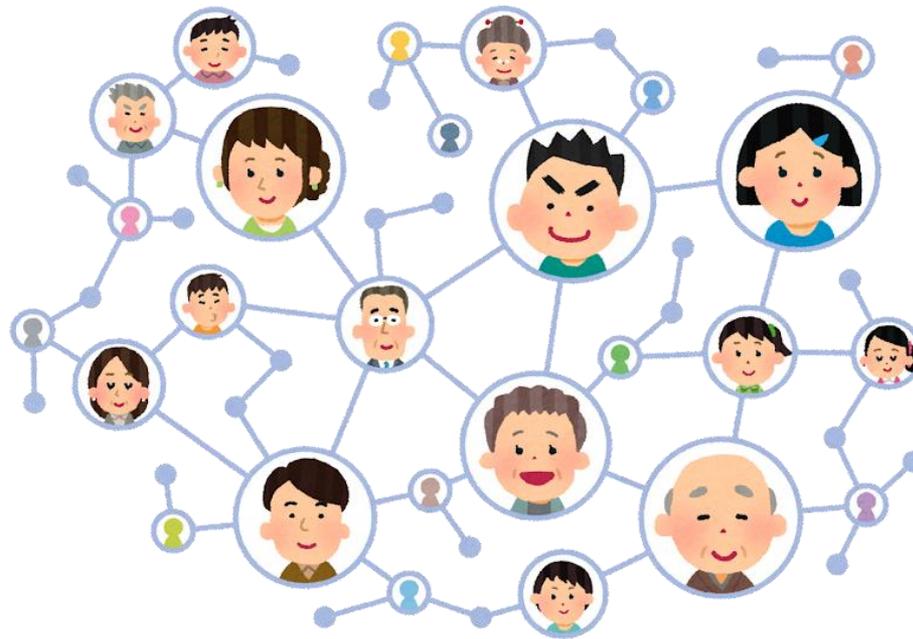


語ろう！考えよう！ 垣根のない小児リウマチ医の未来



ダイバーシティ推進委員会 岡本奈美
(労働者健康安全機構 大阪ろうさい病院 小児科
/大阪医科薬科大学 小児科)

ダイバーシティ推進委員会発進！

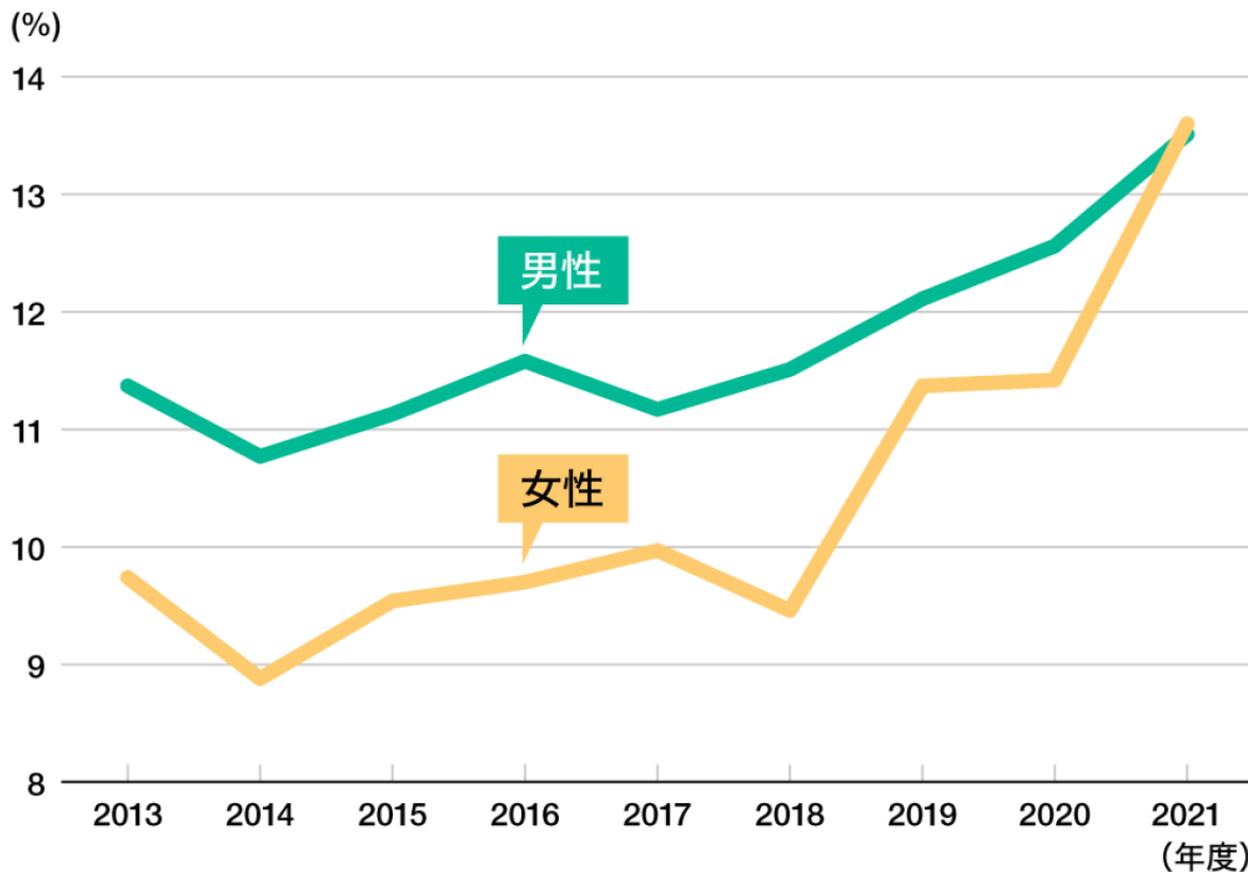
(Advisory Committee for Diversity Promotion)

敬称略、旧男女参画委員会

委員長	岡本 奈美	労働者健康安全機構 大阪ろうさい病院/大阪医科薬科大学
副委員長	山崎 和子	聖マリアンナ医科大学
顧問	稲毛 康司	帝京科学大学/一般財団法人慈愛会慈愛病院
	<u>今中 啓之</u>	社会医療法人 童仁会池田病院
委員	岸 崇之	東京女子医科大学
	金城 紀子	琉球大学
	佐藤 知実	滋賀医科大学
	篠木 敏彦	独立行政法人国立病院機構 三重病院
	<u>中野 直子</u>	愛媛県立中央病院
	檜崎 秀彦	日本医科大学
	橋本 邦生	長崎大学
	<u>坂東 由紀</u>	北里大学メディカルセンター
	八代 将登	岡山大学病院

医学部入試における男女格差

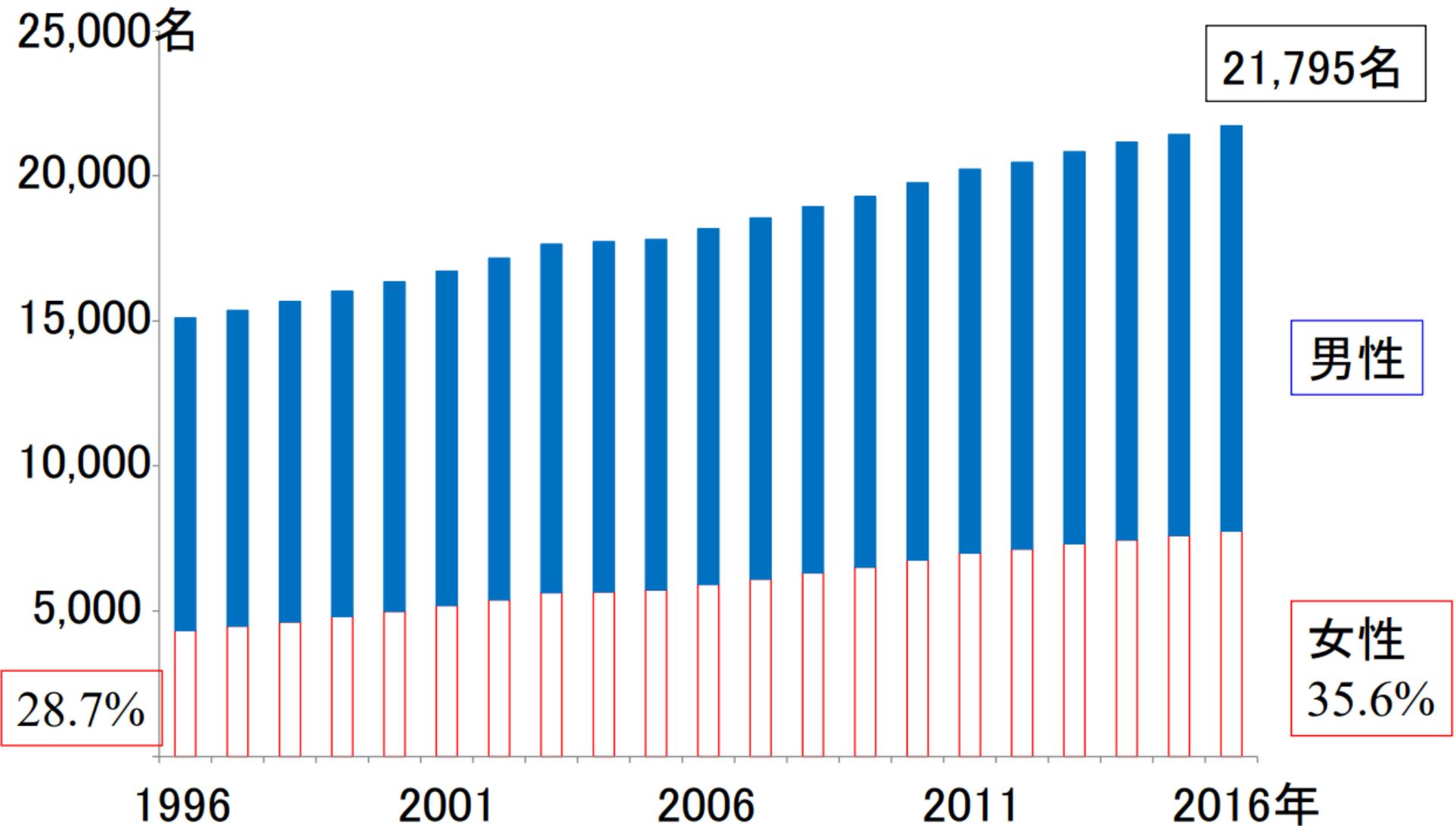
医学部の男女別合格率の推移



文部科学省のデータを基に作成

nippon.com

日本小児科学会の会員数



日本小児科学会の会員数

医師全体でも小児科でも女性比率は**増えている**

年齢別会員数(2016年)

年齢 (才)	会員数 (人)	女性の比率 (%)
20~29	1,089	41.8
30~39	2,373	44.1
40~49	4,861	42.3
50~59	4,356	30.9
60~69	4,137	23.1
70~	1,970	27.6

2019年医学部入学者女性約37%

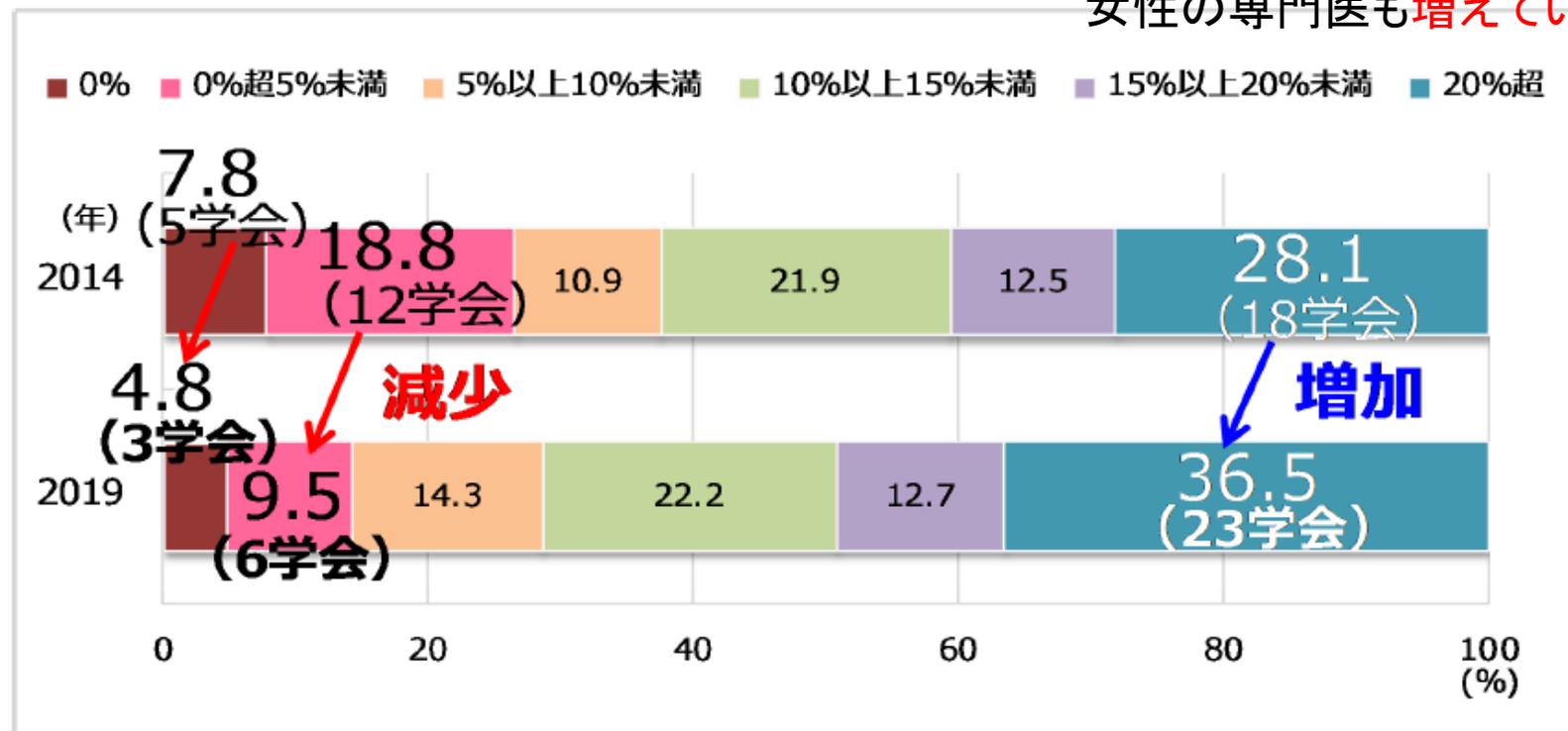
1975年医学部入学者女性約10%

専門医制度と女性医師の割合

専門医制度があると答えた学会は、63/88学会(2014年は64/101)であった。

2019年における専門医の女性割合は、0%が3学会。0%超5%未満が6学会。20%以上は23学会で着実に増えている。

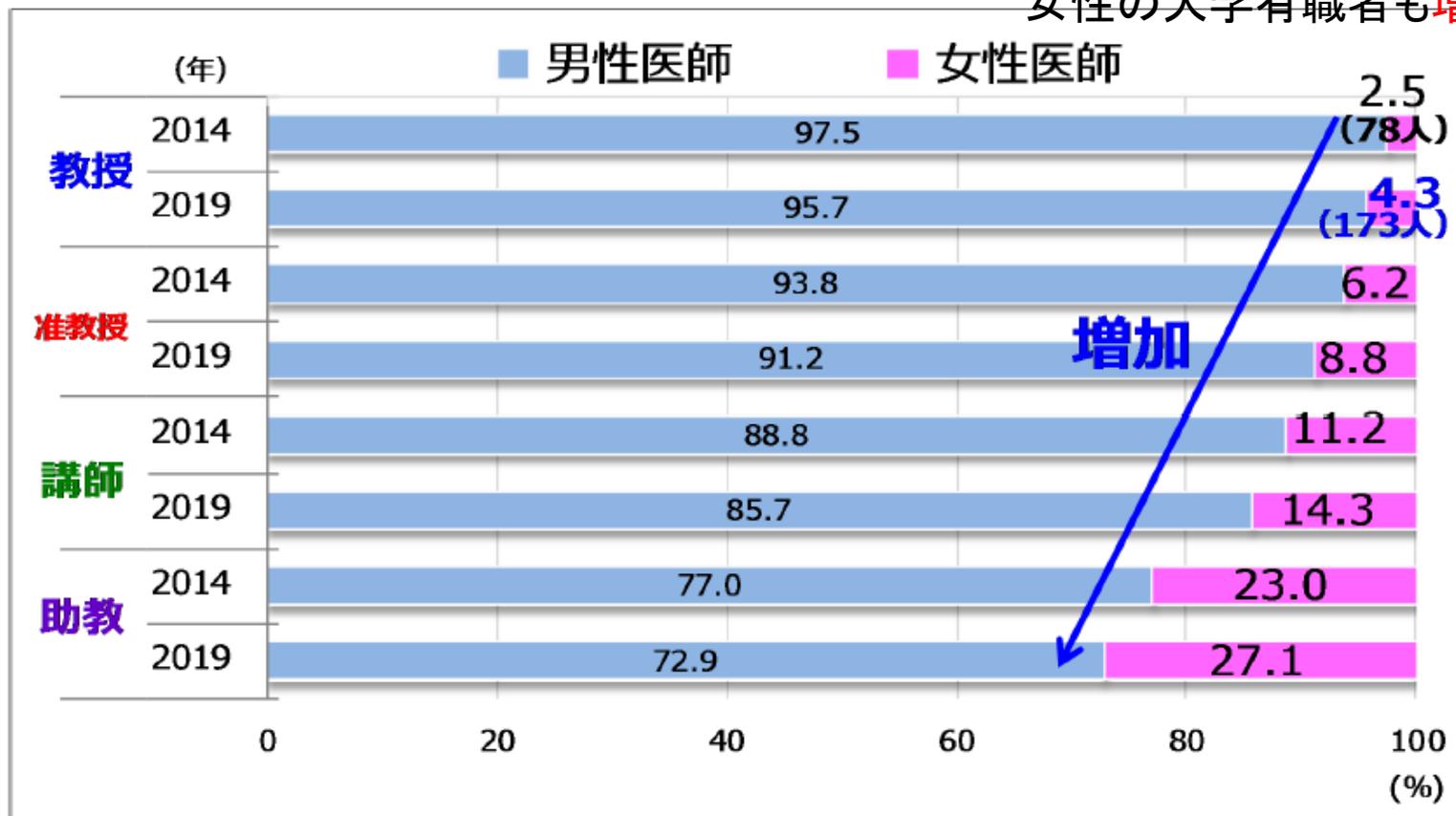
女性の専門医も増えている



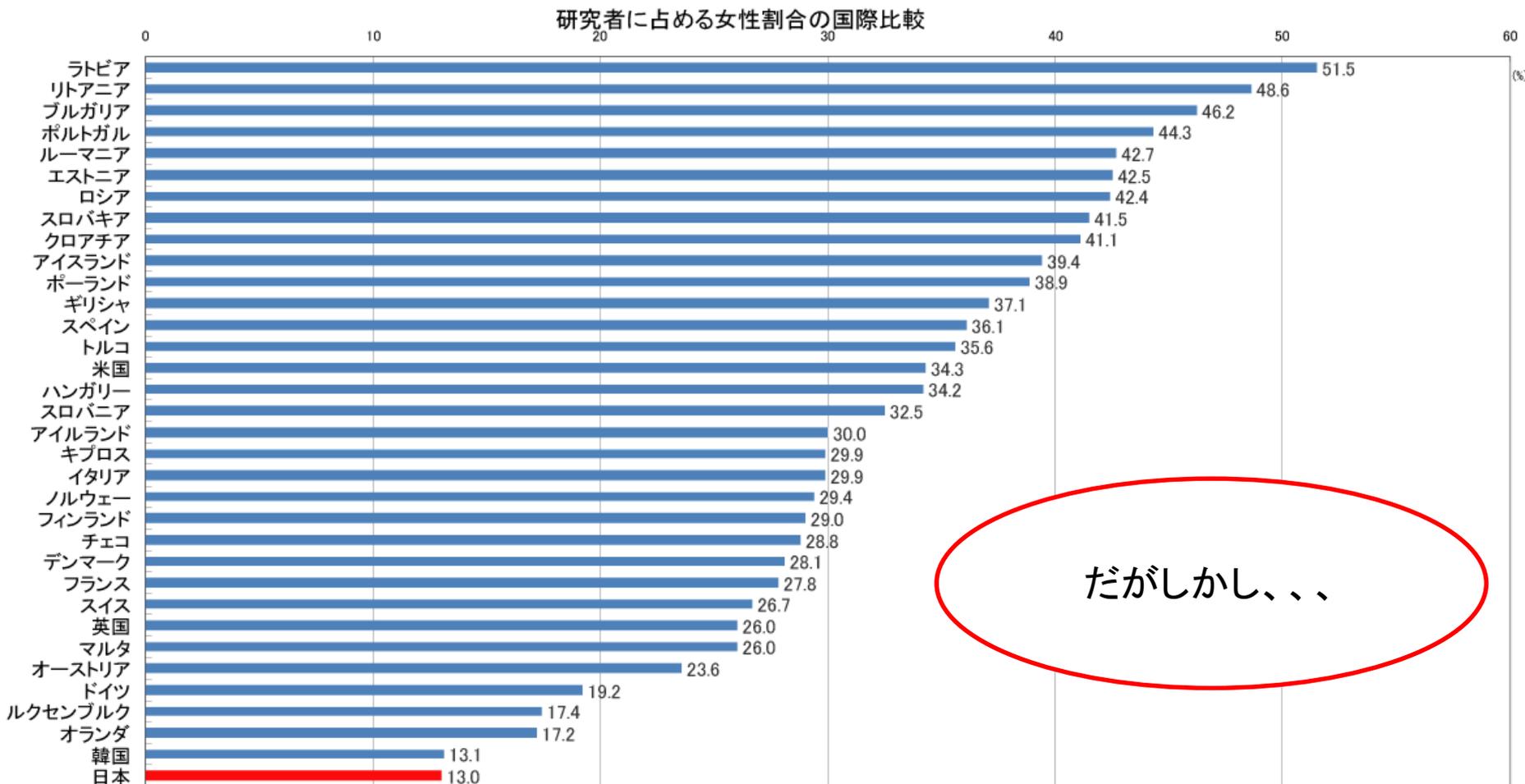
医学部における女性医師の役職者数

教授である女性医師の割合は、2014年の2.5%（78人）から、2019年の4.3%（173人）へ大きく増加した。

その他、医師の役職者数は、准教授・講師・助教とも割合が増加している。
女性の大学有職者も増えている



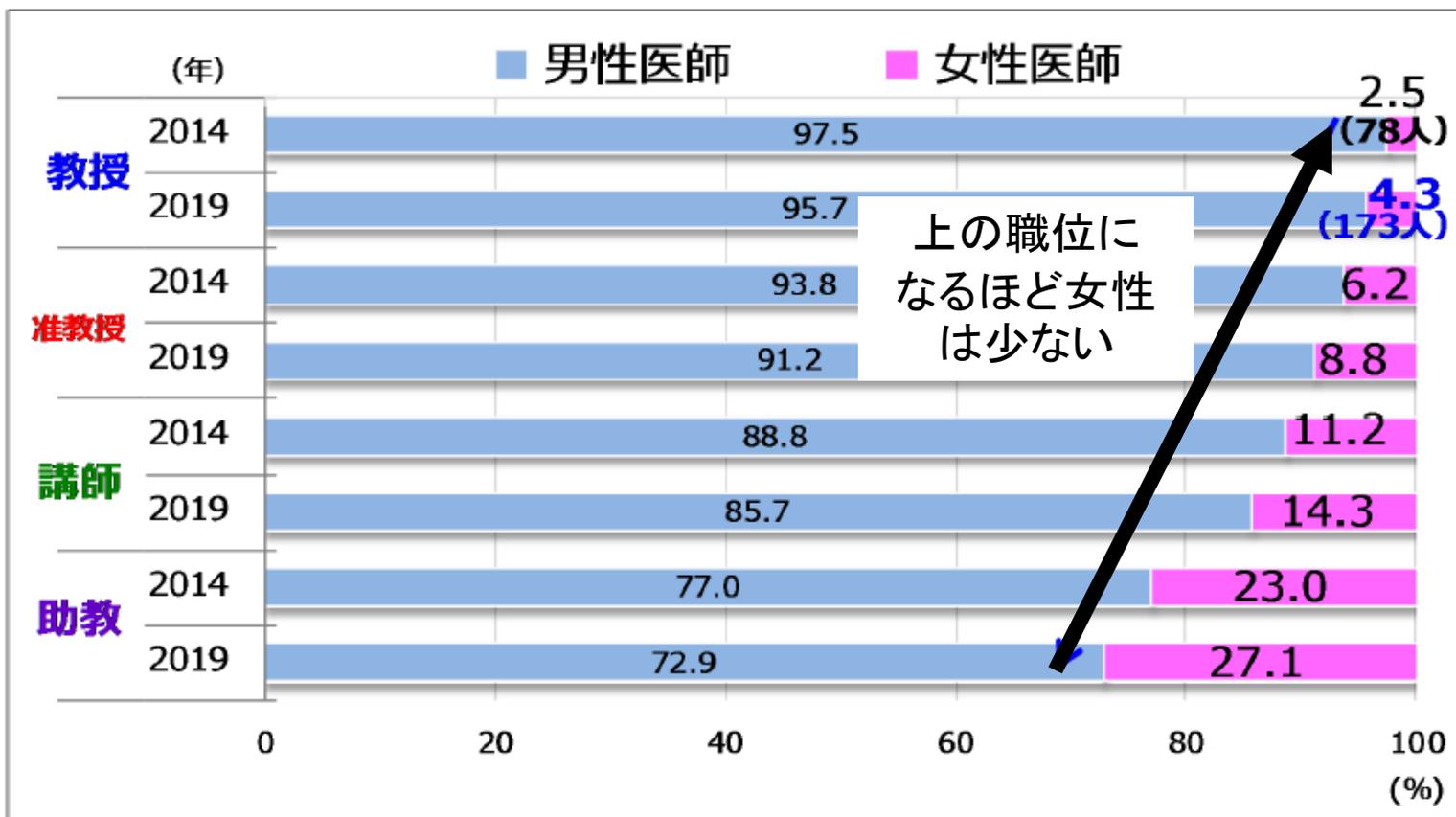
日本の女性研究者は少ない



- (備考) 1. EU諸国の値は、英国以外は、Eurostat2007/01に基づく。推定値、暫定値を含む。ラトビア、リトアニア、スロバキア、ハンガリー、チェコ、マルタは平成17年(2005年)、ポルトガル、アイスランド、ギリシャ、アイルランド、ノルウェー、デンマーク、ドイツ、ルクセンブルク、オランダは平成15年(2003年)、トルコは平成14年(2002年)、その他の国は平成16年(2004年)時点。英国の値は、European Commission"Key Figures 2002"に基づく(平成12年(2000年時点))。
2. 韓国及びロシアの数値は、それぞれOECD"Main Science and Technology Indicators"の"2007/2(2006年時点)"及び"2006/2(2005年時点)"に基づく。
3. 日本の数値は、総務省「平成20年科学技術研究調査報告」に基づく(平成20年(2008年)3月時点)。
4. 米国の数値は、国立科学財団(NSF)の「Science and Engineering Indicators 2004」に基づく雇用されている科学者(scientists)における女性割合(人文科学の一部及び社会科学を含む)。平成15年(2003年)時点の数値。技術者を含んだ場合、全体に占める女性科学者・技術者割合は27.0%。
5. 以上、内閣府資料、OECDデータ等より、お茶の水女子大学教授・学長特別補佐 塩満 典子氏作成

日本の医学部女性教授は少ない

特に臨床系女性教授は少ない



「女性医師支援に関するアンケート調査」日本医師会女性医師支援センター
2019年7月速報(再掲)

米国でも残る高くて堅いガラスの天井

2016年11月9日 大統領選敗北時、ヒラリー・クリントンの演説(部分翻訳)

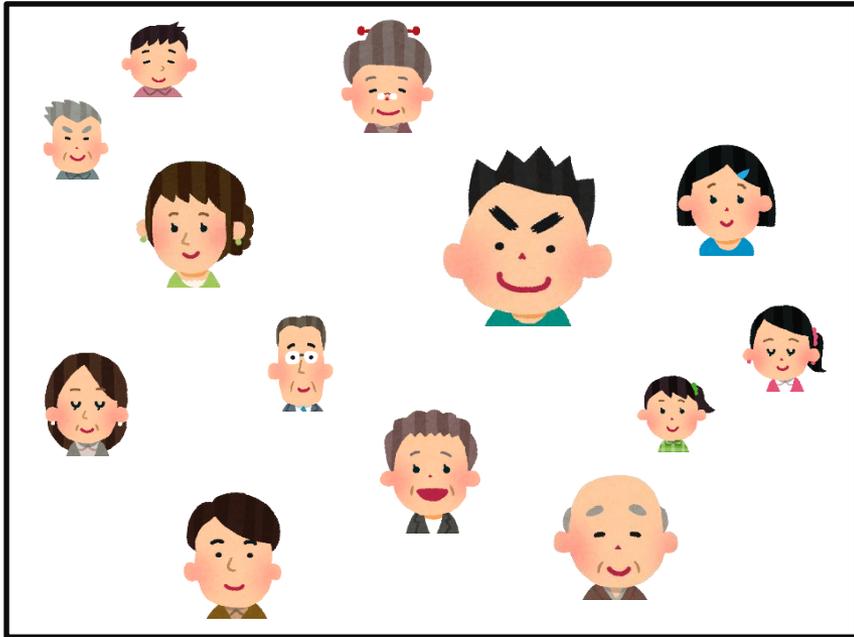
特に若い皆さんにこれが届くことを願います。私は生涯にわたって私が信じるもののために戦ってきました。成功もしましたが、時には躓き、時には本当に辛いこともありました。あなたたちの多くは専門的、公的、政治的なキャリアを始めたばかりだと思います。あなたたちも成功と挫折を経験するでしょう。損失は辛いものです。でもお願いです、**正しいことのために戦うことは価値があると信じる**ことを、決してやめないでください。

私を信じてくれたすべての女性、特に若い女性に、あなたのチャンピオンでいることほど私が誇りに思っているものはないと伝えたい。私たちは未だにあの**最も高く堅いガラスの天井**を打ち砕くことはできていません。でもいつか、誰かが達成してくれるでしょう。願わくは、今私達が思うよりも早く。

これを見ている**すべての少女たちへ**。あなたたちは価値があり、力もあり、あなたの夢を追い求め叶えるためのこの世界のあらゆる機会を与えられていることを、決して疑わないでください。

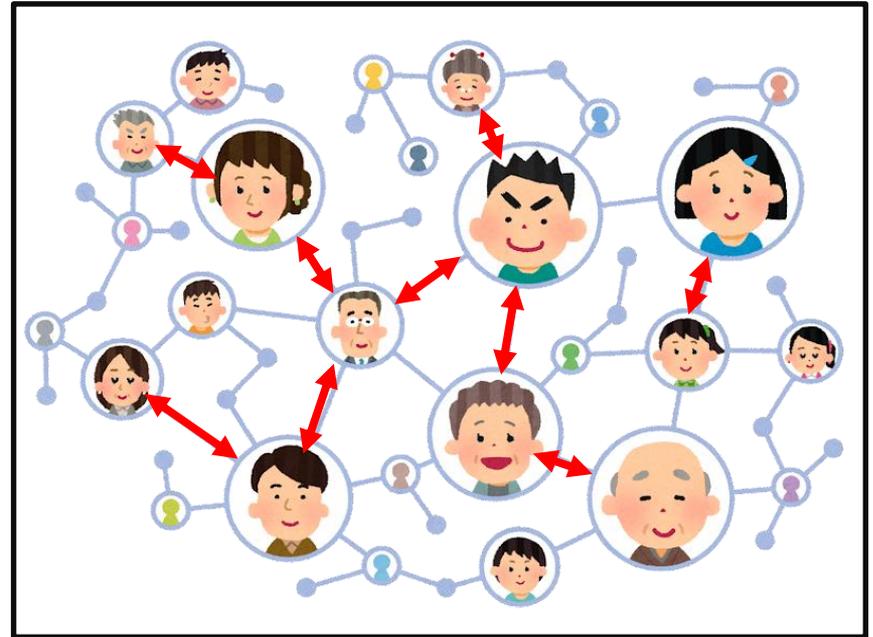
表面だけの数合わせではいけない

Diversity (多様性)



多様な人材が集まっている状態

Diversity (多様性) and Inclusion (包括)



多様な人材が集まって、相互に機能している状態

ただ一緒にいるだけでは不十分。
どうすれば各人がそれぞれの場所と立場で輝やき、
全体としてwin-winになるのか？をみんなで考えて解決

→ **SOLUTION (解決)**

文化的、心理的、経済的自由を目指して



Equality (平等)

Equity (公平)

Justice (正義)

Liberation (解放)

各人に等しい支援

各人が同じ立場に
立てるような支援

障壁が壊された状態
(されどすぐに壁は
復活する)

元から障壁が
ない状態

女性医師の給与所得平均は 男性医師の7割程度

経験年数問わず			経験年数問わず				
区分	所定内 給与額	年間賞与 その他特 別給与額	労働者 数	区分	所定内 給与額	年間賞与 その他特 別給与額	労働者 数
	千円	千円	十人		千円	千円	十人
男性医師	1001.1	1282.2	10 253	女性医師	733.5	809.9	2 898
～ 19歳	-	-	-	～ 19歳	-	-	-
20～24歳	368.3	12.5	65	20～24歳	383.9	3.7	22
25～29歳	427.9	187.4	1 280	25～29歳	373.0	217.3	741
30～34歳	636.2	546.1	1 223	30～34歳	514.4	482.5	528
35～39歳	820.2	1139.3	1 291	35～39歳	781.2	1181.0	399
40～44歳	977.8	1534.2	1 115	40～44歳	919.4	1206.7	280
45～49歳	1173.5	1718.8	1 110	45～49歳	945.5	1496.9	294
50～54歳	1329.1	1742.9	1 049	50～54歳	1307.9	1370.0	245
55～59歳	1261.2	1675.8	986	55～59歳	995.3	1203.1	194
60～64歳	1320.7	2129.0	1 015	60～64歳	1097.0	604.1	62
65～69歳	1319.1	1951.1	629	65～69歳	1240.7	668.9	94
70歳～	1335.7	569.5	490	70歳～	627.2	312.5	39

20～30代は妊娠出産のためパート勤務→キャリア形成に影響→40代以降の給与にも影響

Dr. Barbara Mary Ansell

CBE, FRCP, FRCS, FRCPC



- 1923-2001、小児リウマチ医
- 1951年Bywaters教授の誘いで、当時小児リウマチ研究の中心地であったTaplawのカナダ赤十字記念病院に赴任
- 360以上の成人および小児リウマチに関する論文著者
- 1959年「16歳未満で発症した3か月以上続く小児の慢性関節炎」をStill's diseaseと定義
- 1978年「若年性慢性関節炎」(現在のjuvenile idiopathic arthritis: JIA分類の基礎)の定義
- EULARの小児リウマチ常設委員会の最初の委員長
- 欧州小児リウマチ学会(PReS)創設
- PReS年次集会ではOpening Ceremony with Barbara Ansell lecture

Arch Dis Child 2003;88:185

Ansell, BM and Bywaters EGL. Bulletin on Rheumatic Diseases.1959;9:189-192.

Ansell BM. Ann Rheum Dis. 1978;37:107-120.

Ansell B.の功績



- 新たな表現型を報告する臨床能力
- 若年性特発性関節炎の分類案 (MD論文)
- 小児リウマチ専攻医、関連する他科の医師及びメディカルスタッフの研修
- **国内外への発信** (国内巡回診療/教育、国際的研究/学術団体設立)
- 専門技術センターの整備 (**チーム医療**)
 - ▶▶ **多職種カンファレンス**・回診の開始
 - ▶▶ 保護者及びスタッフの関与



Woo Patricia(UCLの元小児科教授). Ann Rheum Dis 2019;**78**:725–728.

doi:10.1136/annrheumdis-2019-215106

男女共同参画・チーム医療への取り組み



- バーバラは「男の世界」である循環器の仕事から排除されていた。それもあってか、常に女性のキャリア形成を支援。**女性医師が家庭人と専門医の両立**を図れるよう、非常勤の専門研修を促進。しかも男性メンバーの負担を増やすことなく、彼らのキャリア形成も支援した。
- 助成金、招待講演、副事業などを通じて、チームの**メンバー全員がカンファレンスや研究会に参加**できるように支援した。

後を引き継ぐのは並大抵ではなく
不断の努力が必要だった



Woo P, et al. Ann Rheum Dis 2019;**78**:725–728.

doi:10.1136/annrheumdis-2019-215106

(Woo先生の写真はUCLのHPより. <https://www.ucl.ac.uk/>)

PRAJならできる！



一般社団法人

日本小児リウマチ学会

PRAJ PEDIATRIC RHEUMATOLOGY ASSOCIATION OF JAPAN

女性の学術集会会長

第20回学術集会(平成23年:台風の為)

金城 紀子

第21回学術集会(平成23年)

三好 麻里

第22回学術集会(平成24年)

岩田 直美

第26回学術集会(平成28年)

富板 美奈子

第30回学術集会(令和3年)

宮前 多佳子

第31回学術集会(令和4年)

金子 詩子

第32回学術集会(予定:令和5年)

坂東 由紀

【Special thanks】

スライド内容の校閲・審議:ダイバーシティ推進委員会

敬称略、順不同